

キヨヒメクラゲ (有触手綱, カブトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科) の第二番目の記録

久保田 信^{1*}・秋山 仁²・山崎 悠介²

¹〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

²〒858-0922 長崎県佐世保市鹿子前町1055 西海パールシーセンター

Second record of the ctenophore *Kiyohimea aurita* (Ctenophora, Tentaculata, Cydippida, Kiyohimeidae) in Japan

Shin Kubota^{1*}, Hisashi Akiyama² and Yuusuke Yamasaki²

¹Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,
Kyoto University, 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

²Saikai Pearl Sea Center, 1055 Kashimae, Sasebo, Nagasaki, 858-0922 Japan

Abstract. Seven specimens of *Kiyohimea aurita* Komai and Tokioka, 1940 (Ctenophora, Tentaculata, Cydippida, Kiyohimeidae) were collected at the sea surface in Sasebo, Nagasaki Prefecture, Japan, as the second record of this species from anywhere in the world. Based on three of the specimens, the morphology is described, and photographs are provided. They are compared with the type specimens collected at the sea surface at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan, in the winter of 1939–1940.

Key words: Morphology, Ctenophora, description, Japan.

(要約)

世界で第二番目の記録となるキヨヒメクラゲ *Kiyohimea aurita* Komai and Tokioka, 1940 (有櫛動物門, 有触手綱, カブトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科) の7個体を長崎県佐世保市沿岸から2008年1月に採集したので, 写真撮影し形態を記載するとともに, 原記載で用いられた和歌山県白浜町産の標本 (1939–1940年冬季に採集された数個体) と比較した。

はじめに

キヨヒメクラゲ *Kiyohimea aurita* Komai and Tokioka, 1940 は, 和歌山県白浜町沿岸で1939–1940年の冬季に採取された数個体の標本をもとに新科新属新種として記載された (Komai and Tokioka, 1940)。その後, 本種は64年ぶりの

2004年2月初旬に1個体が筆者により和歌山県白浜町沿岸で発見されたものの捕獲に失敗し記録できなかった (久保田, 2006)。今回, 稀種である本種が2008年冬季に長崎県佐世保市沿岸で複数個体採集されたので, 世界で2番目の正式記録としてその形態を報告する。

*連絡先 (Corresponding author): shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

材料と方法

2008年1月4日に長崎県佐世保市俵ヶ浦町俵ヶ浦 (33°7'0"N; 129°40'23"E) の防波堤に接続する浮き桟橋の海面 (水深5-6 m) 付近 (水温13.0°C) を浮遊遊泳する本種7個体を岸からひ

しゃくですくいとった。写真撮影は採集直後に、計測は双眼実体顕微鏡を用いて採集後2日目に3個体について行った (他の4個体は、採集後に形状が崩れて測定不能)。

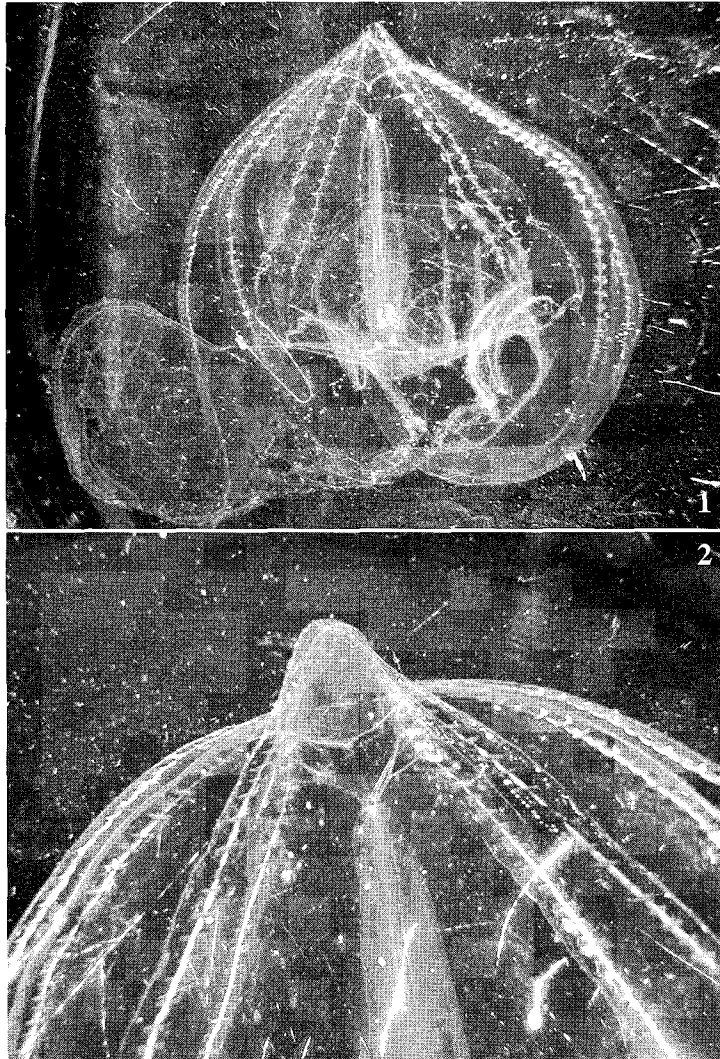


図1. 長崎県佐世保市沿岸産のキヨヒメクラゲ *Kiyohimea aurita*.

Fig. 1. *Kiyohimea aurita* from inshore waters at Sasebo, Nagasaki Prefecture, Japan.

図2. 長崎県佐世保市沿岸産のキヨヒメクラゲ *Kiyohimea aurita* の反口部の拡大図 (図1と別個体).

Fig. 2. Enlarged view of aboral part of *Kiyohimea aurita* from inshore waters at Sasebo, Nagasaki Prefecture, Japan (different individual from that in Fig. 1).

表1. 長崎県佐世保市産と和歌山県白浜町産(原記載標本)のキヨヒメクラゲの形態比較.

Table 1. Morphological comparison between specimens of *Kiyohimea aurita* from inshore waters at Sasebo, Nagasaki Prefecture and the type specimens from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan.

最大幅 (cm)	三角状突起から 口までの長さ (cm)	三角状突起から平衡 器までの長さ (mm)	沿触手面 櫛板肋数	沿咽頭面の 長さ (mm)	耳状突起の 長さ (mm)	寄生動物の数	
						クラゲノミ類	吸虫類
長崎県佐世保市産							
8	5	12.1	27, 32	46	18	多数	0
5	4.5	12.9	24, 26	35, 40	18	少数	0
5.5	4	9.1	17, 17	30, 30	17	少数	多数
和歌山県白浜町産(原記載)							
-	up to 8	-	30-40	40-50	-	-	-

-:記載なし (Komai and Tokioka, 1940)

記 載

Kiyohimea aurita Komai and Tokioka, 1940

キヨヒメクラゲ

(Figs 1-2)

Kiyohimea aurita Komai and Tokioka, 1940: 43, figs 1-3.

全個体とも原記載で用いられたものよりやや小型であったが(表1), 無色透明で扁平な体, 1対の三角状突起の形状, 管系の接続・走行状態, 特に袖状突起内の水管の屈曲状態, 袖状突起や耳状突起の形状(図1, 2), 沿触手面と沿咽頭面にある櫛板の数と配列(表1)などが原記載とよく一致した. いずれも脆弱な体で固定標

本として残せなかった.

なお, 寄生動物として, 扁形動物の吸虫類と甲殻動物のクラゲノミ類がみられた(表1).

引用文献

Komai, T. and Tokioka, T., 1940. *Kiyohimea aurita* n. gen., n. sp., type of a new family of lobate Ctenophora. *Annotnes zool. japonenses*, **19** (1): 43-46.

久保田信, 2006. 泡と消えたキヨヒメクラゲ. 宝の海から 白浜で出会った生き物たち: 50-51. 紀伊民報, 田辺市.

(2008年9月8日 受理)